

日本銀行
帯広事務所長

水川 達生



先日、地元金融機関主催の高校生向けセミナーで講師を務める機会を得た。主催者から依頼されたテーマは「高校生に知っておいてほしい金融経済の基礎知識」。話す内容を考えるにあたり、高校生の子どもを持つ職場の同僚から教科書を借りて目を通してみたところ、驚くほどレベルが高く、基礎知識の習得という点では、学校の授業で十分ではないかと思えた。

とはいえ教科書は、評価が十分に定まっていない最近の事柄に関する記述がどうしても手薄になりがちだ。そこで、近い将来、社会にこき出し、働いてお金を得るという点に向き合うこととなる若い世代に知ってもら

い参加した高校生には興味をもつて聴いてもらえたようだ。現在進行形のトピックをなるべくわかりやすく整理して伝えるための準備はそれなりに大変で、筆者自身も大いに勉強になった。

また、今月初めには、北海道金融広報委員会の活動の一環と

について話したい。参加者は20歳代から80歳代までと幅広く、その多くはシニア世代に属する方々だったが、最後まで熱心に聴き入っておられたのが印象的だった。

これら二つの講演のテーマや参加者の世代は対照的だが、両者に共通して言えるのは、人の

切っても切れない関係にある。そのお金をめぐっては、最新のテクノロジーを活用した新しい金融商品・サービスが次々と登場している。また、「人生100年時代」の到来が指摘されるなか、計画的な資産形成の重要性が高まっているほか、巧妙化する悪質商法や投資詐欺などに備える必要がある。

お金について学ぶ

知能などの技術革新を背景に足もと急速に進む経済・産業構造の変化について話をした。幸

して、一般の方々向けの講演会を帯広市内で開催した。例年ご

き、お金について学ぶことの大切さだ。

筆者が委員を務める北海道金融広報委員会は、くらしに身近な金融広報・学習支援活動を幅広く展開しています。また、当事務所では、お金や経済のしくみなど金融教育に関する講師の派遣を行っています。ご関心のある方は、当事務所までお気軽にご相談ください。

まちまい論壇

今回のテーマは「終活」。配偶者の闘病生活を支え、みとった経験をもち、この分野で精力的に活動されているジャーナリストの方を講師に迎え、医療や介護、相続といったお金に関する問題を含め、自分自身で「いきかた」「生きかた」と「逝きかた」を決めることの必要性

経済・社会環境が変化するにつれ、個人の価値観も多様化し、最近では物質的な豊かさよりも、金銭的な価値では測れない精神的な豊かさを重視する傾向が強まっている。それでもなお、就職に結婚、出産、子育て、住宅、退職、老後など、人生のさまざまなイベントや段階とお金とは

筆者が委員を務める北海道金融広報委員会は、くらしに身近な金融広報・学習支援活動を幅広く展開しています。また、当事務所では、お金や経済のしくみなど金融教育に関する講師の派遣を行っています。ご関心のある方は、当事務所までお気軽にご相談ください。

オピニオンのページ

毎週月曜掲載